

日本原子力学会 2012 年秋の大会
保健物理・環境科学部会全体会議議事次第

日時：2012 年 9 月 21 日(金) 12 時～13 時

場所：0 会場 総合科学部東講義棟 K305 (広島大学)

議 事 次 第

進行：高橋・柿内 委員

- | | |
|------------------------------|---------|
| 1. 部会長挨拶 | 高橋部会長 |
| 2. 部会表彰について | 山澤副部会長 |
| 3. 学会事故調査委員会について (資料 1) | 横山委員 |
| 4. 福島特別プロジェクトへの対応について (資料 2) | 服部副部会長 |
| 5. 2013 年春の年会以降の部会企画等について | 高橋・柿内委員 |
| 6. その他 | |
| 7. 閉会挨拶 | 山澤副部会長 |

以上

平成 24 年 9 月 21 日 横山

「東京電力福島第一原子力発電所事故に関する調査委員会」について

設置目的

日本原子力学会（以下「学会」）は、原子力の専門家で構成される学術的な組織の責務として、東京電力福島第一原子力発電所事故とそれに伴う原子力災害の実態を科学的・専門的視点から分析し、その背景と根本原因を明らかにするとともに、原子力安全の確保と継続的な安全性の向上を達成するための方策及び基本となる安全の考え方を提言することを目的として、「東京電力福島第一原子力発電所事故に関する調査委員会」（以下「学会事故調」）を発足させる。

同時に、学会自らの組織的・社会的な問題点とも向き合い、原子力災害を避けなかった要因を明らかにして、必要な改革を提言することも重要な目的である。

学会事故調の提言に基づき、学会は原子力界の組織・運営の改革や原子力安全研究をはじめとするさまざまな活動に反映させるべく働きかける。

・第 1 回会合

日時 2012 年 8 月 21 日(火) 13 : 30~16 : 30

場所 3 東洋海事ビル会議室

議事内容 :

- 調査委員会の設置目的及び運営方針について
- これまでの学会の活動
- 検討項目
- スケジュール

・第 2 回会合

日時 2012 年 9 月 4 日(火) 13 : 30~17 : 20

場所 発明学会ビル セミナー室

議事内容 :

- 東京電力福島第一原子力発電所における事故調査・検証委員会（政府事故調）報告
- 前回議事確認
- 検討項目と検討体制について

・第 3 回会合

日時 2012 年 9 月 20 日(木) 17 : 00~18 : 30

場所 広島大学 東広島キャンパス 東講義棟 K101

平成 24 年第 1 回「福島特別プロジェクト」

平成 24 年 9 月 1 日（土）10:00～12:00

於 除染情報プラザ会議室

議 事

1. 委員長挨拶
2. プロジェクトの設置目的および運営方針について
3. 福島特別プロジェクトの活動について
4. 今後のスケジュールについて

以上

日本原子力学会福島特別プロジェクト

1. はじめに

日本原子力学会では、理事会直結の組織として「福島特別プロジェクト（仮称）」を創設する。このプロジェクトは、東京電力福島第一原子力発電所の未曾有の事故による原子力災害の修復に、福島のため現地の視点に立って学会の総力を結集して臨むものとする。

すなわち本プロジェクトは、地元にとって切実かつ喫緊の課題である周辺環境の除染作業のサポートや放射線影響に関する分析・助言など現地における活動を中心としつつ、事故炉に関する中長期対策などについて、関連する部会、専門委員会等の学術的な知見も最大限に活用し地元に取り有益な情報を分かりやすく発信するなど、地元役に立つ活動を幅広く実施することを目指したものである。

2. 主な業務

福島県の住民のため、現地において除染等の技術支援を中心とした活動を行う。併せて、地元において関心があると考えられるプラントの状況に関する情報等を分かり易く説明するため、以下の業務を行う。

なお、今後、福島県や住民の方々のニーズと具体的な活動の進展を踏まえ、柔軟に活動内容等を見直しつつ活動の範囲を広げていくこととしている。

① 環境修復/中長期対策への提言

東京電力福島第一原子力発電所の事故による周辺環境並びに事故炉の修復に関する技術課題の分析、評価を行い、必要に応じて、環境省や福島県が行う環境修復及び政府・東京電力が進める中長期対策に対して提言を行う。また、引き続き、関係機関が行う環境修復のための現地試験への立ち会いなど現場での支援を行う。

② 一般向け情報提供

放射線のモニタリング結果やクリーンアップ技術などに関する技術評価を行うとともに、放射線の健康影響も含め、一般向けに解説、報告を行う。その結果を住民説明用の資料などの形でとりまとめる。

③ シンポジウムの開催

上記の活動に基づき、福島県民ならびにその他の地域の住民に向けて環境や事故炉

の修復、放射線などに対する分かりやすい情報発信を行い、正確な事実・知識の普及、理解の促進を図る。このため環境省、福島県、関係市町村、その他関係機関と協力してシンポジウムや対話集会などを開催する。

- ④ 福島県・環境省の「除染情報プラザ」を積極的に活用した除染促進活動
 - i) 除染情報プラザの機能向上、利用促進のための助言
 - ・ 除染情報プラザの機能向上を図るため、除染プラザ運営機関に対して除染技術、放射線影響などに関する原子力学会の知見を提供するなど、助言を行う。
 - ・ 地元の方の積極的な利用促進を図るため、広報活動を支援する。
 - ii) 除染情報プラザ業務への支援
 - ・ 各種除染情報の収集とマッチング作業の実践
 - ・ 放射線の健康影響、除染の方法、仮置や中間貯蔵等について、住民からの質問などに対応する専門家を派遣する。
 - iii) ミニ講習会等の開催
 - ・ 除染情報プラザにおいて行われるミニ講習会について、テーマ設定の提案や講師派遣などの支援を行う。
 - ・ 学会の専門家が講師となり、現地を巡回するミニ講習会を開催する。

- ⑤ 除染講習会のアドバイザーとしての業務
 - ・ 除染講習会用のテキストの作成
 - ・ 除染ボランティアおよび指導員の教育

3. 体制

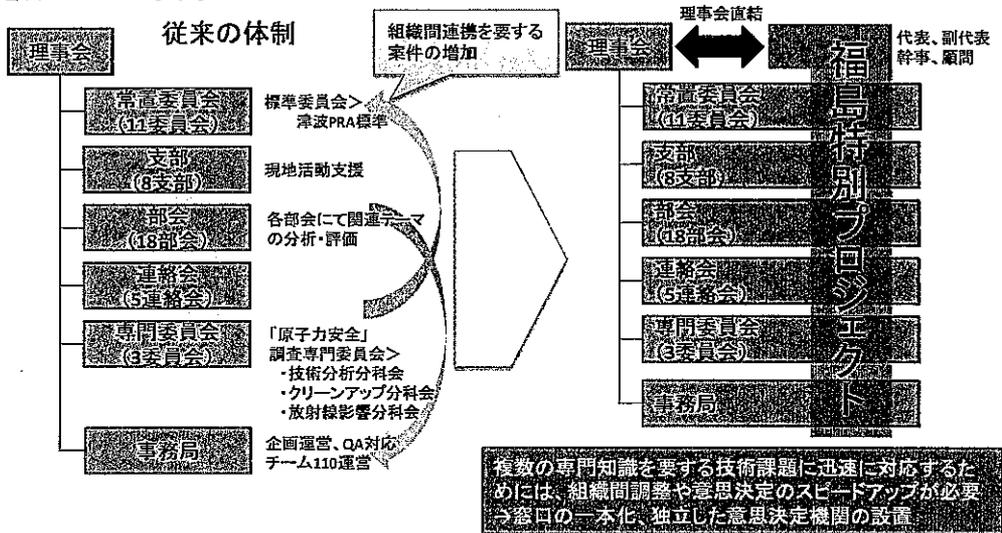
福島特別プロジェクトは原子力学会理事会に直結する組織とし、代表、副代表、幹事および顧問を置く（代表：田中知、副代表：池本一郎、幹事：藤田玲子、顧問：角山茂章）

これまで現地において積極的な活動を行ってきた放射線影響分科会、クリーンアップ分科会を中心として、関連する部会、専門委員会支部等と連携した体制とし、地元ニーズや具体的な活動の進展を踏まえ、柔軟に体制を組み替えながらプロジェクトの円滑な推進を図るものとする。

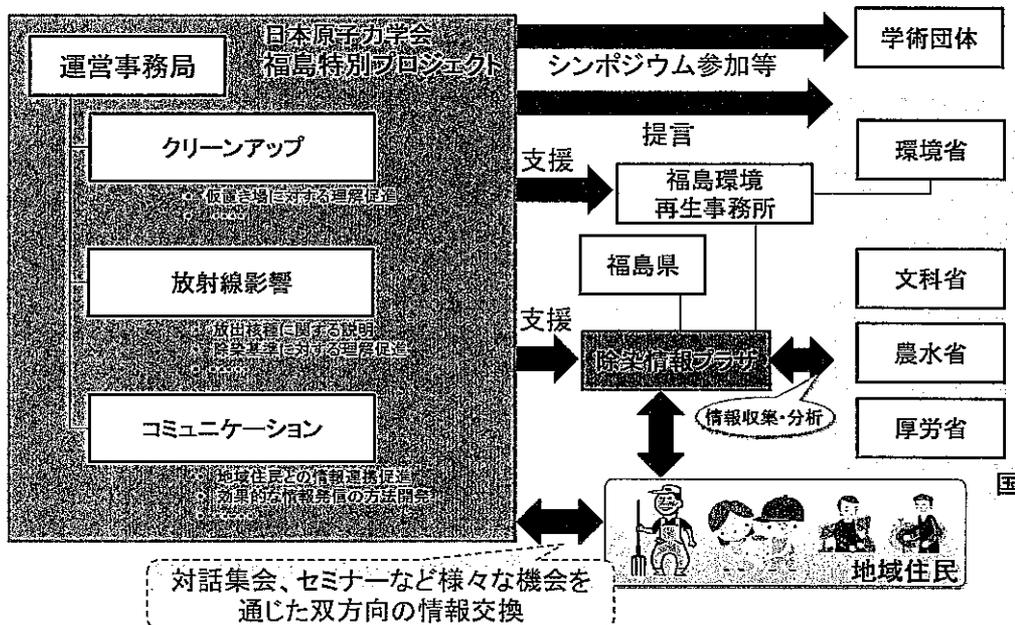
以上

「福島特別プロジェクト」創設の背景

本プロジェクトは、福島第一原子力発電所事故による原子力災害の修復にあたり、現地の視点に立って学会の総力を結集して臨むために設立されます。従来の体制を強化し、現地における活動支援と、関連部会・専門委員会等における学術的・技術的知見活用のスムーズな連携を図ることを目的としています。



福島特別プロジェクトの機能構成



編集委員会の状況について

編集委員担当 山西 弘城

1. 部会編集委員担当

山西弘城（近大）、横山須美（藤田保健衛生大）、森泉 純（名大）、塚田祥文（環境科学技術研）

2. 学会誌

- ・保健物理・環境科学分野に関係する下記の記事が掲載された。

（4月号）

【解説】 「福島第一原子力発電所の事故に係る放射線影響分科会の活動報告(II)-緊急事態宣言下初期における放射線情報の把握と活用（「原子力安全」調査専門委員会放射線影響分科会）」

「ヨーロッパにおける食品摂取経路を通じたチェルノブイリ事故の影響-全身計測による放射性セシウムの人体負荷量とそれによる内部被ばく」（稲葉次郎）

（7月号）

【解説】 「放射線・粒子線がん治療と医学物理の最前線-第1回 X線がん治療の現状，課題，展望」（平岡真寛）

（8月号）

【解説】 「低線量放射線の人体影響-わからないことがわからない」（福本 学）

（9月号）

【解説】 「食品中放射性核種濃度の新たな規格基準について」（高橋知之）

「放射線・粒子線がん治療と医学物理の最前線-第2回 ホウ素中性子捕獲療法(BNCT)」（小野公二）

（著者敬称略）

他にも除染、放射線教育、一般公衆とのコミュニケーションなどについての記事が多数ありますので、是非お目を通し下さい。

3. 論文誌

- ・「福島事故関連論文」の査読迅速対応 継続中
- ・2011年9月以降の第12分野論文投稿状況
投稿受付数 計21本（参考：2011年9月～2012年4月：21本）
内、掲載否3、撤回後再投稿1本
第12分野から他分野に分野替え6本
- ・2012年7月以降の論文投稿状況 投稿数6（英文3 和文3）内 掲載否3
- ・部会員の皆様におかれましては、査読委員の依頼の際には是非、ご協力をお願い致します。

4. 学会賞「論文賞」推薦

- ・第12分野（保健物理と環境科学）よりH23年度受賞（2012春の年会にて表彰）
茅野政道、中山浩成、永井康晴、寺田宏明、堅田元喜(JAEA)、山澤弘実（名大）, Preliminary Estimation of Release Amount of ^{131}I and ^{137}Cs Accidentally Discharged from the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant into the Atmosphere. *JNST* Vol. 48, No. 7, p.1129-1134 (2011).

以上

日本原子力学会 保健物理・環境科学部会
第7期(2012-2013)役員等名簿 (2012年10月1日現在)

【役員】

部会長 : 高橋千太郎 (京大)
副部会長: 山澤弘実 (名大)、服部隆利 (電中研)
会計監査: 杉浦紳之 (放医研)

【運営小委員会委員】 (32名)

飯田孝夫 (名大)、飯本武志 (東大)、石森有 (原子力機構)、内田滋夫 (放医研)、
占部逸正 (福山大)、荻野晴之 (電中研)、柿内秀樹 (環境研)、木名瀬栄 (原子力機構)、
栗原治 (放医研)、小嵐淳 (原子力機構)、小佐古敏荘 (東大)、杉浦紳之 (放医研)、
高田千恵 (原子力機構)、高橋千太郎 (京大)、高橋知之 (京大)、竹安正則 (原子力機構)、
塚田祥文 (環境研)、外川織彦 (原子力機構)、床次眞司 (弘前大学)、永井晴康 (原子力機構)、
橋本周 (原規庁)、服部隆利 (電中研)、二ツ川章二 (RI 協会)、本間俊充 (原子力機構)、
三浦太一 (高エ研)、宮川俊晴 (日本原燃)、百瀬琢磨 (原子力機構)、森泉純 (名大)、
山澤弘実 (名大)、山西弘城 (近大)、横山須美 (藤田保健衛生大)、米原英典 (放医研)

【学会委員】

代議員	米原英典 (放医研)	2011~2012 年度
	外川織彦 (原子力機構)	2011~2012 年度
部会等運営委員	木名瀬栄 (原子力機構)	2012~2013 年度
学会誌編集委員	森泉 純 (名大)	2009~2012 年度
	塚田祥文 (環境研)	2010~2012 年度
	山西弘城 (近大)	2010~2012 年度
	横山須美 (藤田保衛大)	2011~2013 年度
学会プログラム委員	柿内秀樹 (環境研)	2010~2012 年度
	小嵐 淳 (原子力機構)	2012~2014 年度
(枠組み編成)	栗原 治 (放医研)	2012~2014 年度
福島特別プロジェクト委員	飯本武志 (東大)	2012 年度~
	服部隆利 (電中研)	2012 年度~
	米原英典 (放医研)	2012 年度~
学会事故調委員	百瀬琢磨 (原子力機構)	2012 年度~
	横山須美 (藤田保衛大)	2012 年度~

【部会内担当委員】

総務・渉外担当: (総) 柿内秀樹 (渉) 飯本武志、(総・渉) 高橋知之、高田千恵、荻野晴之
会計担当: 森泉純 (会計立案、処理、報告)
広報担当: 石森有、竹安正則 (HP、メーリングリスト管理、部会ニュース作成等)
企画WG幹事: 栗原治、永井晴康 (部会企画の立案、運営、プログラム作成等)
企画アドバイザーWG: 占部逸正、宮川俊晴、杉浦紳之、木名瀬栄 (部会等運営)、
飯本武志 (渉外)、「テーマ提案者」
表彰選考小委員会: 占部逸正、高橋千太郎、山澤弘実、服部隆利、塚田祥文、永井晴康、
木名瀬栄、柿内秀樹